

都市再生整備計画(大友氏遺跡歴史公園周辺地区) 事後評価について①

都市再生整備計画の概要

1. まちづくりの経緯

- ・戦国時代の大分を治めた大友氏の館が所在する大友氏遺跡を中心としたその周辺は、歴史的な資源にめぐまれた場所であり、現代のまちの中に様々な時代の遺跡が重なり合って残っており、当時の土地利用の痕跡も良好に遺されている。その後、江戸時代に府内城の築城と城下町の形成を経て、現在の大分市街地の文化的都市基盤の礎となった場所であると位置付けられている。
 - ・これまでの都市再生整備計画を進める中で、各拠点における回遊性向上のため、快適な歩行空間や案内サインの整備、市民の交流の場となる広場などを整備し、歴史・文化や地域資源を活かした街づくりにおいて、一定の成果をえている。今後も整備した場が更に周知され、利活用されるための魅力発信や、大友氏遺跡の魅力を高める整備を含めた継続的な事業を行い、大友氏遺跡歴史公園周辺地区の活性化を図る必要がある。

2. 地区の課題

① だれもが訪れやすい大友氏館跡の雰囲気づくりと周辺歴史遺産の顕在化

- ・大友氏館跡の本格的な公園整備に先立って、だれもが訪れやすい、歴史公園の基礎となる広場整備を優先的に行いながら、整備状況や発掘調査の様子を積極的に公開し、大友氏遺跡歴史公園の整備に対する市民の期待度を高めていく必要がある。あわせて大友氏館跡を基点とした、周辺の歴史遺産の顕在化を行いながら、エリア全体の魅力と回遊性を高める整備が必要である。

② 歴史文化資源のさらなる活用

- ・大友氏に関する認知度が一定程度高まつたものの、現在進捗している大友氏館跡の史跡整備に関する認知度や期待度の醸成は十分とは言えない。また、イベント等の参加者が一部の歴史愛好家などに偏る傾向があり、大友氏や大友氏遺跡についての魅力を幅広く伝える方策が必要である。

③ 歴史文化資源をいかしたまちづくり

- ・歴史・文化観光の拠点となる施設の整備が整っていないため、歴史・文化を活かした個性と魅力あるまちづくりができていない。

3. 将来ビジョン(中長期)

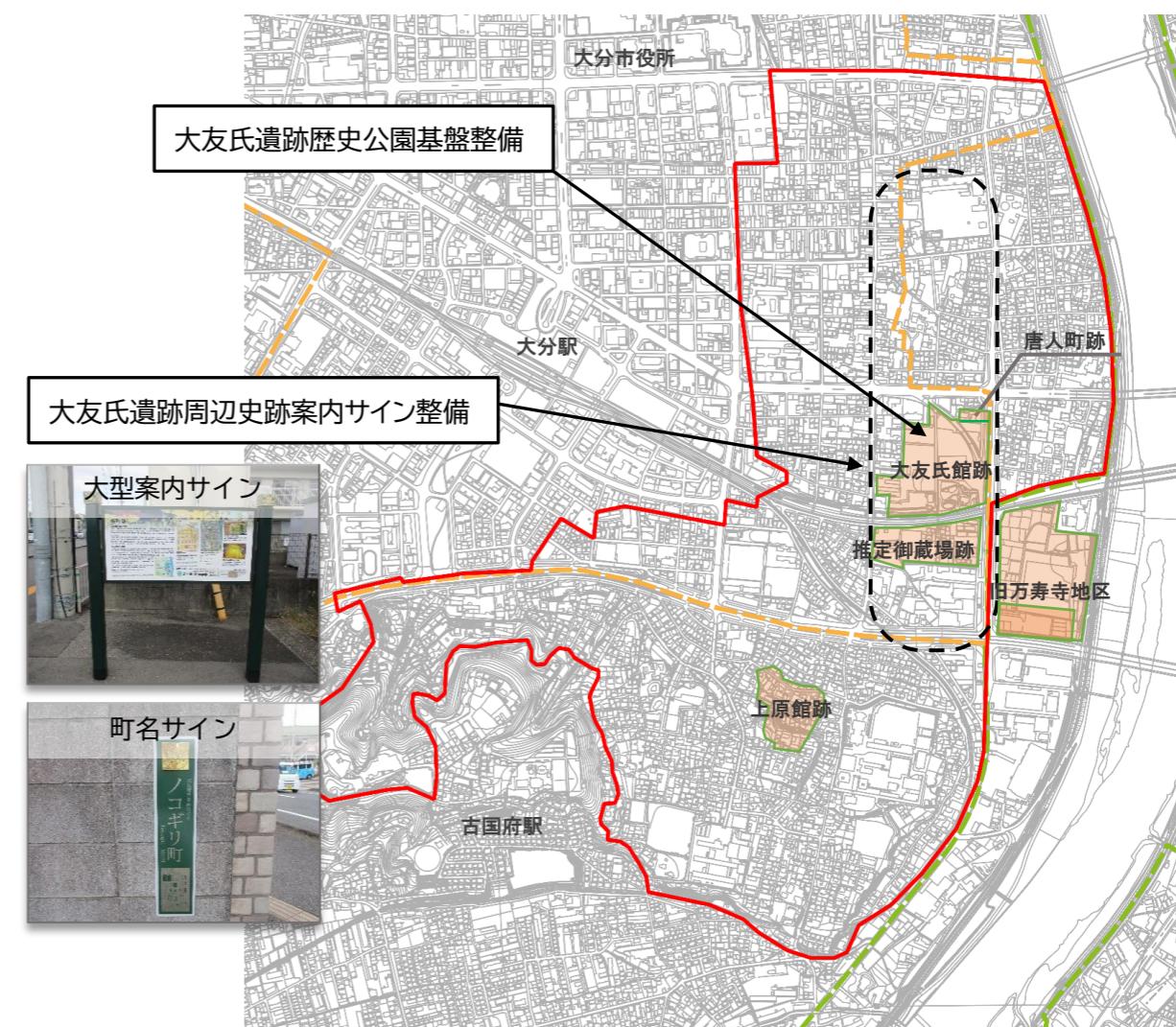
- ・「史跡大友氏遺跡整備基本計画（第1期）」（令和元年度改訂版）に基づき、大友氏遺跡歴史公園を整備活用の基本目標「南蛮文化発祥都市おおいたの創造・体感・発信拠点」として具現化し、歴史文化観光拠点として歴史公園や歴史文化観光拠点施設等の整備を行う。また、豊富な歴史・文化資源を地域住民や各種の市民団体と協働して発信していくことで、市民の誇りや市民全体での歴史・文化資源を活かしたまちづくり意識を醸成する。
 - ・県都大分ならではの古代から近世までの重層的な歴史空間が体感できる歴史・文化の薫りがただよう、個性と魅力あふれるまちづくりの実現をめざす。

4. 目標

大目標	歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり
目標1	大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の基盤整備を進める
目標2	国指定史跡大友氏遺跡の歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する
目標3	地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、歴史文化資源の顕在化により幅広い層に認知度向上を図る

5. 計画の概要と事業箇所

所 在 地 : 大分市顕徳町
事 業 主 体 : 大分市
面 積 : 212.5ha
交 付 期 間 : 令和3年度～令和7年度
事 業 費 : 435.0百万円
基 幹 事 業 : 大友氏遺跡歴史公園基盤整備、大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備
提 案 事 業 : 大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント
大友氏遺跡歴史体験事業（大友氏館跡の敷地を使った歴史ワークショップ・茶会等）
歴史文化まちの魅力向上事業（遺跡見学会やまちあるきイベント等）



凡例

：事業節用

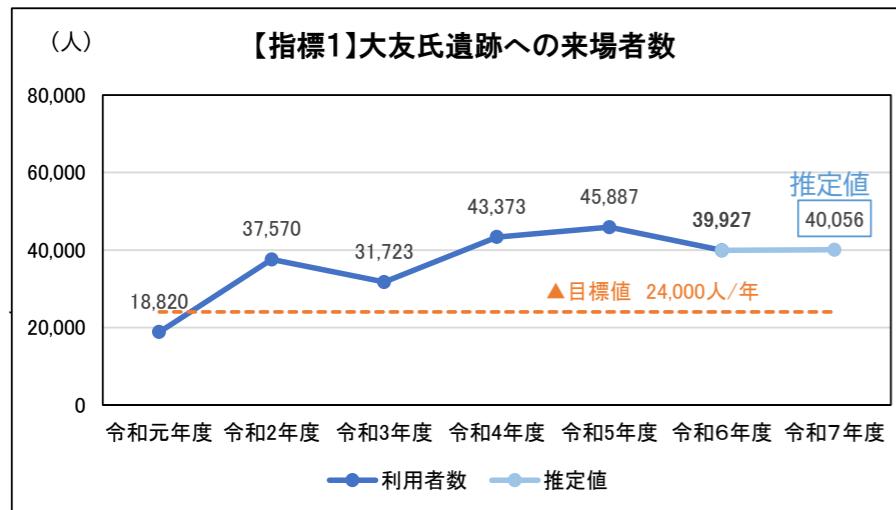
：都市機能誘導区域

———：居住推将区域(居住隧道区域)

都市再生整備計画(大友氏遺跡歴史公園周辺地区) 事後評価について②

事後評価シートの概要

1. 成果の評価(都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況について)



■定義

大友氏遺跡内に所在する大友氏遺跡関連施設への来館者数や、関連イベントへの参加人数、大友氏遺跡全体を訪れる観光客・来訪者の人数

■目標達成度【○】

■総合所見

大友氏遺跡歴史公園の整備が進み、庭園が公開されたことで、来場者数は大きく増加した。さらに、事業期間中に実施された各種イベント等の効果により、一定の認知と関心を得ることができたため、その後も目標値を大きく上回る来場者数を記録したと考えられる。

2. その他の数値指標による効果発現状況(当初設定した数値目標以外の指標)

【その他の数値指標1】
「南蛮 BVNGO 交流館における市外からの来訪者の割合」

	令和2年度	令和6年度
市内	3,286	75.1%
市外	1,092	24.9%
(内訳) 県内	501	11.4%
県外	590	13.5%
国外	1	0.0%
合計	4,378	100%
	5,937	100%

※来館者全員に聞き取っていないため、合計が実際の来館者数と異なっている。

■データの計測手法と評価値の求め方
南蛮 BVNGO 交流館の来館者のうち、市外から来館した人の割合

■本指標を取り上げる理由
指標1を補完する指標として、大友氏館跡歴史公園が広域的な観光拠点としてのポテンシャルを有しているかを把握するため。

■総合所見
整備の進捗や多様なイベントの開催により、市外からの来館者の割合が増加しており、特に歴史に関する人に対して歴史文化観光拠点としての魅力が高まっていると考えられる。

【その他の数値指標2】
「南蛮 BVNGO 交流館職員による出前講座回数」

	対応回数(回)	受講者数(人)
令和元年度	7	559
令和2年度	9	1052
令和3年度	4	456
令和4年度	10	841
令和5年度	10	832
令和6年度	12	957

■データの計測手法と評価値の求め方
南蛮 BVNGO 交流館職員による小学校への出前講座を行った回数

■本指標を取り上げる理由
指標2を補完する指標として、地域の歴史文化の魅力を伝え、また、地域内での文化継承が促進されていることを把握するため。

■総合所見
近年10校以上へ出前講座を実施しており、地域の歴史や文化の魅力を若年層へ伝えることで、次世代への郷土理解と文化継承の促進や人材育成にも寄与していると考えられる。

3. 今後のまちづくり方策(効果の持続・改善策)

「南蛮文化発祥都市おおいた」としてまちづくりの推進

方策1：歴史公園整備の更なる推進

大友氏遺跡を歴史・文化観光拠点として資する歴史公園となるように、歴史文化資源を含めた来訪者への効果的な情報発信や、県外への広報・PRをする。さらに、デジタルを用いた空間体験の整備、中心建物の復元等の公園整備を推進し、誰がいつ訪れても楽しめ、多目的に利用できる緑と文化が感じられる集いの場となる空間の形成を図る。

方策2：歴史文化資源のネットワーク化と賑わいの創出

中心市街地の東西連携を図る線路敷ボードウォーク広場や歴史的な記念碑のある遊歩公園や府内のまちにあたる中島錦町線等を活用し、府内城跡等の市内の歴史文化資源とのネットワーク化を図ることで、地域内の回遊性と滞留性を向上させて、新たな賑わいの創出を図る。さらに、県内の大友氏遺跡との広域的な連携を強化し、県全体での観光・交流の促進を目指す。

方策3：歴史・文化資源の価値の顕在化

学校教育や生涯学習との連携を通じて、大分の歴史や文化を継承、郷土への誇りや愛着の醸成を更に促進させていくとともに、幅広い層へ適切な情報発信を行い、歴史・文化資源の価値の顕在化を図る。